

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674100272		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム音羽		
所在地	京都府京都市山科区音羽森廻り町34-8		
自己評価作成日	平成23年8月25日	評価結果市町村受理日	平成24年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2674100272&amp;SCD=320&amp;PCD=26">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2674100272&amp;SCD=320&amp;PCD=26</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成23年10月18日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣に小学校・神社と環境に恵まれており、小学校の卒業式や入学式へ出席したり、互いに新聞の交換を行っている。また、近隣の動物病院へ遊びに行ったり、散歩時には、地域の方と挨拶を交わしたり、散歩中の犬を戯れたり、地域の区民運動会やお祭りにも参加し交流している。地域・近隣の交番にホーム新聞を配布することでホームの理解にも努めている。利用者へは、じっくりと向き合い、傾聴することで利用者の思いに添ったケア・生活が送れるよう、思いやりのケアに努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

神社や公園など緑が多く、子ども達の声が聞こえる住宅街に建つ当該ホームは、地域とのかかわりを大切にしながら、利用者一人ひとりがその人らしく暮らせるようにとの思いでケアを行っています。毎日の散歩で近所の方と挨拶を交わしたり、行事や学校との交流を通して地域に溶け込んだ生活の体制作りにも努めています。また地域の方々にホームを理解してもらい、気軽に訪れてもらえるよう開放的なホーム行事も検討し、少しずつ実践しています。職員は入居者の情報収集を細やかにを行い、個々の思いや状態を充分把握して記録に残しケアの統一に向けて話し合い共有しながら支援しています。個別ケアの導入により一層利用者の本意を汲み取ることができ、希望の食事や思い出の場所への外出支援が図られています。温かい触れ合いと尊厳あるケアが、利用者の明るい笑顔を引き出しています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域と共に支えあい、思いやりの介護を提供します」と事業所理念をホーム玄関に掲げ、職員間で共有しています	理念は、利用者のその人らしさや地域との関係を大切に考え、職員皆で話し合っ作りました。常に利用者中心であり、地域にホームを知ってもらうことを実践しながら、会議でも理念について話し合い、方向がぶれないよう意識付けを行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者との散歩時など近隣の方々と挨拶をし、地域の行事(小学校の入学式・卒業式、お祭り・区民運動会など)への参加や回覧板・交番・小学校へホーム新聞を配布し交流に努めている	町内会に入会し、ホームでの行事や音羽新聞を回覧で回しています。地域の行事等は運営推進会議や小学校から情報を得ています。認知症サポーター講座として、小学校との交流会を行ったり、青空喫茶を開くなど地域への働きかけを積極的に行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて意見交流を行ったり、日々の散歩からや、ホーム新聞の配布などから理解に努めている。また、今年度より地域の方々と利用者の交流会(あおぞら喫茶)を開催している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議には町内会長、民生委員、老人委員、地域包括の職員が参加しサービスの実際の報告や相談、意見交流を行っている。今年度は家族が参加しやすいよう第4土曜日に設定し案内しているが参加に至っていない	会議は町内会役員や民生委員、地域包括支援センター職員の参加があり、二ヶ月に一度開催されています。ホームからは利用者の現状や行事報告を行い、参加者からは地域の情報や問題に対するアドバイスをもらっています。家族にも参加を呼び掛け、議事録の開示を行っています。	運営推進会議を行事や家族交流会に組み入れたり、お茶会形式にするなど家族が気軽に参加してもらえる機会を作り、家族の参加が実現し、より双方向的な会議に進展することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録やホーム新聞を窓口で持参し関係づくりに努めている	市役所の介護福祉課から研修の案内をもらったり、ホームで何かあれば相談したりしています。区役所との協力関係も意識して、今年度より運営推進会議の議事録を管理者が直接区役所へ提出しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	洛和会の全体研修に参加し、日頃のケアやカンファレンスからも身体拘束について意識づけをし、行っていない。夜間のみ防犯予防のため施錠している	年1回法人で身体拘束についての勉強会があり、伝達研修を行っています。普段の行動や言葉での制止についても事例を挙げて話し合い、職員同士で注意を促すなど拘束における弊害の理解を深めています。玄関はセンサー対応で、ユニットは夜間も開放し、閉塞感のない自由な暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	洛和会の全体研修に参加し、日頃のケアやカンファレンスで意識づけに努めている		

洛和グループホーム音羽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性を話し合い活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくりと十分に説明を行い、理解・納得が得られるよう心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回アンケートの実施や玄関に意見箱を設置している。また、日頃の面会時や電話などからさりげなく意見を聞き、出された意見は職員間で検討し、運営推進会議やホーム新聞で報告している	年二回アンケートを実施し、結果及び改善策を毎月のお便りと運営推進会議で報告しています。家族の面会時や行事を兼ねた家族交流会の際に気になる事はないか尋ねたり、遠方の家族には電話で確認しています。利用者の要望に対する改善策は日頃の表情から読み取ったり、家族にもアドバイスをもらい、より良いケアとなるように心がけています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスにて職員の意見や話し合う機会を設けたり、日々のコミュニケーションの中から職員に意見を聞くよう心がけている。また、自己申告書をもとに面談を行っている。	管理者は日頃から職員に声をかけたり、話す機会を設けてコミュニケーションを図り、話しやすい関係性や会議で意見が出やすい雰囲気作りを築いています。職員の提案や個人的な相談は内容を受け止め、考えに寄り添うよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケートや日々の関わりの中から職員ひとりひとりの状況を把握し、面談や日頃より声掛けを行うことで向上心を持って働けるよう心がけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々にケアや力量評価の実施にて職員の力量の把握に努め、法人内外の研修に参加できるよう案内を回覧し研修を受ける機会の確保に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の行事に参加したり会議や研修などで交流を図り意見交流やサービスの質の向上に努めている。グループホーム協議会へも参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人や家族より不安や要望を伺い、情報収集を行い安心した生活が送れるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族より不安や要望を伺い、安心した生活が送れるよう関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員と共に事前に面接をし、本人や家族から情報収集を行うことで必要としている支援の見極めに努める		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる限り家事を共に行い、利用者・職員が共に支えあいながら生活できるような関係づくりを築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会に来てもらえるような声掛けを行い行事への参加など協力や情報を得ながら共に支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人・友人の面会や、なじみのお店への買い物や場所へ行き関係が途切れないように支援している。また、お墓参りや親族へのお見舞い、外食など家族との外出も支援している	日頃から知人や友人の訪問が多くあります。利用者との会話や家族から馴染みの場所を聞いて情報収集し、通い慣れたスーパーで買い物したり散歩コースを工夫しています。今年度より個別ケアとしてマンツーマンの日を設け、より詳しく以前の生活を知る事ができ、思い出の場所へ出掛けるなど昔を懐かしむ支援に繋がっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しながら、日々の会話や家事などお互いに関わり合い、支え合えるような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡や声掛けなどを行い情報を共有している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式や日々のかかわりの中から思いや希望の把握に努め、その人らしく本人本位に過ごせるよう、カンファレンスで話し合っている。	入居時に収集した生活歴や習慣、好みなどの情報や、利用者の日々の言動から希望や意向の把握を行っています。汲み取った思いは全員で記録に残し共有しています。アセスメント用紙の「私の気持ちシート」は半年に1度新しく作成し直し、常に現状の思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用や日々のかかわりから利用者や家族より情報を収集し把握に努めている。また記録している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式や日々のかかわりの中から現状を記録し把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から意見や希望を聞きカンファレンスなどで話し合い、介護計画を作成している。また、医師、看護師の意見も反映している	アセスメントや実践状況、利用者の言動、意向を基に介護計画を作成しています。3か月に1度モニタリングを行い、状態に変化があった場合は随時カンファレンスを開き見直しています。カンファレンスには、家族が記載した希望用紙、医師の往診記録や指導内容、看護師や職員の意見も踏まえ、個々の状態に即した計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子の記入や申し送りにて職員間で情報の共有している。また、ADLの変化があればカンファレンスで話し合い介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り安全に配慮しながら支援に取り組んでいる。また、今年度は年間行事に「個別ケア」を取り入れマンツーマンで一人ひとりのニーズに合わせた支援に取り組んでいる		

洛和グループホーム音羽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や回覧板にて情報収集に努め小学校や地域の行事へ参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に往診やかかりつけ医の希望を聞いている。往診は月に2回あり、体調の変化や急変時などは電話で相談し適切な医療を受けられるよう支援している。また、受診が必要なときは家族にも連絡、相談、希望を聞いている	入居時に協力医について説明し、かかりつけ医を選択してもらっています。他の医療機関で受診の場合も情報を協力医と訪問看護師に報告しています。協力医とは24時間連絡可能で、往診時は家族の都合がつけば同席してもらったり結果をその日にFAXで家族に知らせ、利用者、家族の安心できる医療体制が整備されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護師による体調チェックがあり、体調の変化など何かあればその都度電話で相談し往診医とも連携している。また、ケアプランを配布し日頃の情報の共有に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員、グループホームの相談員と情報の交換、共有を図り、面会にて状態を確認したり、家族の意向を踏まえ早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り指針を説明している。時期が来れば家族の希望を聞き、医師と訪問看護師と相談しながら本人・家族にとって最良の方法の支援に努めている	入居時に看取り指針について説明し、時期が来たら再度意向を確認するようにしています。現時点では看取りの経験はありませんが、希望があり条件が整えば受け入れる方針で進めています。職員は方針を理解しており、研修や他の事業所の事例を聞き説明を受けています。利用者にとってどうかを最優先し方向性を固めるよう取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は普通救急救命を受講し実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回消防訓練や年に1回消防署と共に訓練を実施し、結果は運営推進会議やホーム新聞に載せ地域、交番に配布している	年1回の消防署立ち合いの訓練の他に、2ヶ月に1回ホーム独自で訓練を行っています。マニュアルの確認や連絡網の回し方の練習も行い職員の緊急時対策を強化しています。地域へは運営推進会議で訓練について説明したり、子供110番の役割を担っています。	運営推進会議で町内会役員の方に訓練の様子を見て頂き、感想やアドバイスを頂くことから協力体制づくりに繋げていかれてはいかげんか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのこれまでの生活歴や人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないようアイコンタクトやゆっくりとかかわりことで利用者本意のケアに努め、カンファレンスや日頃から言葉遣いや尊重について話し合いやアドバイスをを行っている	職員同士で利用者の話をする時は、イニシャルを使用し、毎年尊厳やプライバシーについて研修を行っています。トイレ誘導時は小声や手振りでも知らせ、さりげなく誘導するよう配慮しています。自分の立場ならどうかを振り返り、接し方を会議で話し合ったり、気付いた時に注意して意識付けを図っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で希望を確認したり、二者択一など選択しやすいような機会をつくり自己決定できるよう支援している。また、家族からも情報を収集している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースをペースを大切にし、声掛けを行いながら希望やペースに添えるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を共に選んだり、化粧水・マニキュア・メイクなどその人らしいおしゃれを支援している。また、なじみのお店へ化粧品を買いにいくなどしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を見ながら利用者と献立を相談し、共にキッチンやテーブルで野菜切り・調理・盛り付け・片付けなど一人ひとりの好みや力を活かしながら行っている	献立は冷蔵庫の食材や検食簿を見てバランスを考え、利用者の希望を取り入れて決めています。足りない食材を一緒に買いに行き、調理や準備、片付けも職員と一緒にしています。年に数回外食や喫茶店へ行くなど気分を変える食事を楽しんでもらい、食事中は職員も同じ席に着き団らんをしながら食べています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は検食簿に記入し、量やバランスを配慮し、摂取量は一人ひとり記録している。水分は毎食時や10時、おやつ時、希望時などこまめに補給できるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けを行っている。必要に応じてセッティングなど行っている。また、週1回の歯科往診や年1回無料歯科健診を行い清潔保持の努めている。		



洛和グループホーム音羽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録などから個々の排泄パターンを把握し食事前や就寝前、トイレ間隔が長いときなど状況に応じて声掛けを行ったり、タイミングに合わせてスムーズに排泄できるよう自立に向けた支援を行っている	24時間シートで個々の排泄の間隔や尿意のサインを把握しタイミングに合わせてトイレ誘導を行っています。退院後にオムツ使用の回数が減り、本人も喜ばれている事例もあり、焦ることなくその方の状況や体力に合わせた自立支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時の体操や散歩など適度な運動を行い、こまめな水分補給、乳製品や食物繊維、果物など積極的に摂取している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴可能であり午後から夕方までの希望時間に実施している。前日に入浴されていない方から声掛けを行っているが、希望があれば安全に配慮し可能な限り支援している。同姓介助や一人ひとりの温度に合わせて気持ちよく入れるよう努めている	基本的に週2~3回の入浴となっていますが、希望があれば毎日可能です。順番も希望を聞いて対応し、夜間入浴の希望は人員配置等安全が確保できれば受け入れています。季節に合わせて柚子風呂等を取り入れたり、声かけの工夫をしてゆったりと寛げる入浴になるよう配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や疲労が見られるときなど状況に合わせて声掛けを行い安心して休息できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員は薬の説明書を各自目を通し理解に努めている。服薬についてはマニュアルに添って支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中からや家族から情報を収集し、力を発揮できる場や役割を持ち、散歩や合唱、音楽を聴くなど楽しみや気分転換などの支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩が日課となっており、神社にお参りに出かけたり動物病院へ犬を見に出かけたりしている。買い物には安全に配慮し出かけている。花見・紅葉・外食などの外出行事や今年度はマンツーマンでの個別行事も実施し、普段はいけない希望の場所やなじみの場所への外出も支援している	毎日買い物や散歩に出かけ、近所の方々と顔見知りになって話したり、散歩中の犬と触れ合い地域との交流の機会となっています。花見や紅葉狩り、毘沙門堂や植物園への遠足行事もあり、個別ケアも含めできるだけ多く戸外へ出かけられるよう外出の計画を立てて支援しています。	



洛和グループホーム音羽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームにてお金を管理しているが家族と相談しお金を持っている方もいる。また、買い物時は預かっているお金を持って行き自ら支払いをするよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をしたり、家族からの電話を取りついたりやり取りができるように支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのソファからは外の景色が眺め、くつろぎながら季節感を感じられるようになっており、廊下や玄関にもベンチやソファを置き、休憩をしたり、一人になれる場所を確保したり、音楽をかけたりと居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに季節の植物を飾ったり、料理に旬の食材を取り入れて季節を感じてもらえるようにしています。入り口にソファが置かれ、リビングの隅に置のスペースも設けられて一人でくつろいだり休憩の場所として利用されています。通風や温度調節、テレビの音にも留意しゆったりと過ごし易い共用空間になるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには畳やソファ、廊下にはベンチ、玄関にもソファがあり思い思いに過ごせるスペースがある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやベット、スタンド、人形や置物を飾ったりなじみのものや好みのものを持参している。家族との写真を壁に飾ったり、自分らしい居室づくりをし、安心できるよう、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室は明るく、すっきりと整頓され清潔感があります。家具や置物は本人が使い慣れて落ち着ける物を家族に依頼して持ち込んでもらい、ベッドも個々に合わせて用意してもらっています。それぞれ写真やお花を飾ったり、置物が好きな方は一緒に買いに行き揃えたりしながら、その人らしい居室になるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式や日々のかかわりの中から「できること」「わかること」を把握し、見守りや声掛けにて安全に自立した生活が送れるよう工夫している		